

## お盆の行事

夏になると、日本の町や村で「お盆」の行事が見られます。お盆というのは、年中行事の一つです。7月にする地方もありますが、田舎では、大抵8月13日から15日ごろにします。人々は、お盆になると、亡くなった家族や先祖が家へ帰って来ると考えています。このお盆の間、人々は食べ物などを用意して、先祖をうちに迎えるのです。次に紹介するのは、長野県の村の行事ですが、ほかの田舎のお盆も、これと似ています。

お盆の日が近くなると、人々は、家の中に棚を作って、その上に、花やお菓子や野菜を乗せます。先祖が家へ帰って来る時は、乗り物が要るから、用意しなければなりません。乗り物は馬と牛です。馬はきゅうりで、牛はなすで作ります。家へ帰って来る時は、足の速い馬に乗ります。お盆が終わって、家を出て行く時は、足の遅い牛に乗ります。13日の夕方、門のところで火を用意して、家の前を明るくします。これを「迎え火」と言います。家の前が明るいと、どこにあるか、よく分かって、先祖がまっすぐ帰って来られるのです。その夜は、家族や親類の人々が集まって、亡くなった人たちのことを思い出しながら、いろいろな話をします。家の外では、広場や学校の庭などに人々が集まって、夜遅くまでにぎやかに「盆踊り」をします。

が づ に ち せ ん ぞ お く ひ ひ と び と か し は な か わ も い  
8月16日は、先祖を送る日です。人々は、お菓子や花を川へ持って行っ

な が と き ひ つ は な い っ し ょ な が こ と  
て、流します。この時、ろうそくに火を付けて、花などと一緒に流す事  
も  
あります。